

中川の獅子舞

獅子頭

伊篠白幡神社（広報平成十二年九月号）に獅子頭三頭がみつかり、町内の獅子頭はこれで終わりと思っていました。西蔵院にも雄獅子一頭、雌獅子一頭をみる事ができました。獅子頭は、火災にあつてはいるもののよくこまで残ったものです。西蔵院の獅子舞が何年頃まで行われていたのかわかりませんが、明治九年の火災以後は行なわれていない様子です。ただ、この獅子頭をよく見ますと、獅子頭がどのような仕組みで組み立てられているのかわかり参考になります。

和太鼓

珍しい太鼓で、現在の太鼓のように革張りが鋸止めでなく、綱張りで引き伸ばされており、胴回りもケヤキではなく杉材が使用され軽く、獅子舞などに使用されたものではないかと思われれます。制作は、江戸時代末期と思われれます。

中川村日記（弘化五年・一八四八）

「獅子舞復活願」

乍恐以書付奉申上候

一 当村鎮守春祈祷の義は往古より有来候三疋獅子鎮守神
前二而興業為致来り候処、拾ヶ年已前戌年より皆止メ
いたし置候間年々病人多而難渋仕候、然ル処従来永年
仕来相止候故にも有之候哉一同相欺候に付、何卒来ル

五日先例の通被 仰付被下置候ハ、難有仕合奉存候以
上

支配替二付跡義有之候間、名主耆人ツ、明後十三日宵
詰渡辺嘉平次方へ着可相届候此廻状早々順達留村より
可相返候以上

申四月十一日

伊原軍左衛門様

櫻井盤次郎様

根本小一郎様

大沢真之助様

熊谷豊次郎様

柴田新左衛門様手合